



ZOO ず〜つと ふじ子さん

東公園動物園ニュース
2026年冬第79号

ZOO ず〜つと おかざき 特別版



2P、3P 追悼 ふじ子メモリーズ

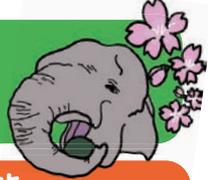
4P、5P ありがとう ふじ子デー

6P いただいたお写真、お手紙、絵や折り紙など
ふじ子さん、またね。ありがとう。





追悼 ふじ子メモリーズ 1982 (S57) 年 ～ 2025 (R7) 年



① ふじ子がおかざきにやってきた 1982 (S57) 年 / ふじ子 14 歳
 ふじ子は岡崎市の親善都市である広島県福山市にあったレジャー施設「赤坂遊園」から寄贈され、東公園動物園が開園する前の年に東公園にやってきました。岡崎で最初にふじ子の飼育を担当した岩尾飼育員が事前に赤坂遊園に出向き、数か月かけてふじ子の飼育管理について教えてもらいました。ふじ子はやんちゃだったので仲良くなるのにとっても苦労したそうです。



赤坂遊園時代のふじ子と研修中の岩尾飼育員（写真右） ふじ子さん！東公園動物園へようこそ！（岡崎市立中央図書館所蔵：右2枚）

② 東公園動物園の開園とベルトコンベア 1983 (S58) 年 / ふじ子 15 歳
 岡崎公園にあった動物園の閉園にともない、動物たちの移転先として東公園に新しい動物園が建設され1983年5月1日に東公園小動物園としてオープン。おてんばで愛嬌たっぷりのふじ子はすぐに一番の人気ものに！翌年の12月にはふじ子の代名詞ともいえる「ベルトコンベア式のエサやり装置」が完成し、エサやり体験が始まりました。それから42年間、ふじ子と来園者をつなぐたいせつな架け橋となりました。

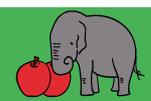


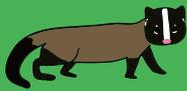
根石保育園・小学校の子どもたちと一緒に盛大な落成式が執り行われました。 ふじ子との思い出 第1位：ベルトコンベアでのえさやり体験 みなさんとふじ子とを繋ぐ架け橋であり、ふじ子の楽しみの一つでもありました。

③ 飼育方法の変更 2002 (H14) 年 / ふじ子 34 歳
 東公園動物園では飼育員がふじ子と同じ空間に入り直接体にコンタクトする「直接飼育」を続けていましたが、ふじ子の成長にともない飼育員が安全に管理できるよう、同じ空間には入らずに飼育作業を行う「準間接飼育」へ飼育方法を変更しました。
 それに伴い、イルカなどの訓練に使われる「ターゲットトレーニング」を開始。ふじ子はとてもかしこく、短い期間で「ハナ」（鼻を出す）、「ミギアシ」「ヒダリアシ」（足を出す）、「バック」「ハンタイ」（後ろを向いて後ろ足を出す）など8つの種目を覚えてくれました。



直接飼育のころの写真 飼育方法の変更 旧ゾウ舎でのトレーニング 新ゾウ舎でのトレーニングと足のケア（洗浄、削蹄）





④ゾウ舎の建て替えとお引越し 2015(H27)年～2016(H28)年 ふじ子 47歳～48歳

より安全にふじ子の飼育を続けていくことに加え、ふじ子が老後も安心して快適にすごせるように、ゾウ舎の改修工事を行いました。新ゾウ舎は旧ゾウ舎のすぐ横に建てられたため、長い工事期間中、ふじ子は獣舎内で過ごすことになりました。大きな音や振動がある中で、担当の飼育員がつきっきりでお世話し、見事工事を乗り越えて新しいゾウ舎へ引越しすることができました。



工事が始まる前の写真（旧ゾウ舎）



工事中の写真



新ゾウ舎完成後の写真

⑤恒例となったお誕生日会（ふじ子の誕生日 / 1968年4月10日）

毎年、ふじ子のお誕生日には来園者の皆さんと一緒に盛大なお誕生日会を開催しました。市内のみならず遠方からも多くのかたがお祝いにかけつけてくださり、全国からたくさんのプレゼントが届けられました。当日はケーキを食べるふじ子を見て、皆さんが「笑ってるみたいだね♪」と喜んでくれました。

私たち飼育員にとってこの日は、ふじ子が1年間元気で過ごせたことをかみしめると同時に、来年もふじ子が誕生日を元気に迎えられるようお世話していくことを心に誓う、特別な日でした。



お誕生日には毎年、大勢のかたがふじ子に会いに来てくれました。



「ふじ子さん笑ってる～」
おいしそうにケーキを食べるふじ子さん。



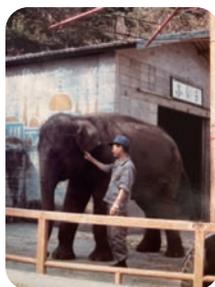
「飼育員特製の誕生日ケーキ」
毎年腕を奮って、心を込めて作りました。

⑥飼育員と結ばれたかたい「きずな」 1982(S57)年～2025(R7)年 ふじ子 14歳～57歳

ふじ子の初代担当者の岩尾飼育員と、ふじ子が岡崎にきて数か月後に担当者になった佐竹飼育員は、ふじ子にとって特別な存在でした。神経質で気難しいところがあったふじ子でしたが、この二人のことは、親のように信頼し、甘える姿を見せていました。佐竹飼育員は新しいゾウ舎の建設中も常にふじ子に寄り添い、心と体のケアにつとめてくれました。また定年後も、ふじ子の足のケアのため治療に通い続け、その関係はふじ子が亡くなるその日まで続きました。



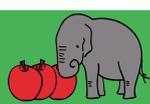
岩尾飼育員とふじ子



引っ越し練習中のふじ子と佐竹飼育員



佐竹飼育員とふじ子





2025年7月30日にアジアゾウのふじ子が亡くなりました。開園以来43年、東公園動物園のシンボルでありアイドルとして市民はもとより全国各地の皆さまに、親しまれ、愛されてきたふじ子を偲び、8月1日から8月31日までゾウ舎では献花台を設置し、最終日の31日に「ありがとう ふじ子デー」を開催しました。

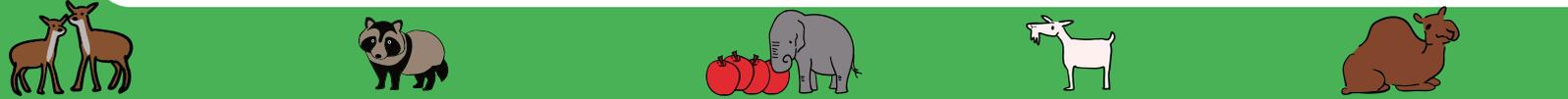


ありがとう ふじ子デー 〈イベント内容〉

- ・ 献花台最終日
- ・ ゾウ舎および運動場の特別開放
- ・ メッセージコーナー
- ・ 飼育員の思い出ガイド
- ・ ふじ子の思い出ムービーの上映
- ・ ふじ子クイズラリー
- ・ ホースチャレンジ
- ・ 東公園動物園グッズ販売

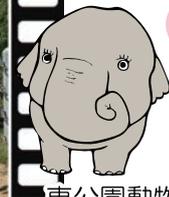
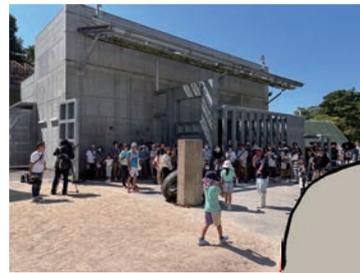
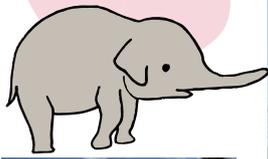
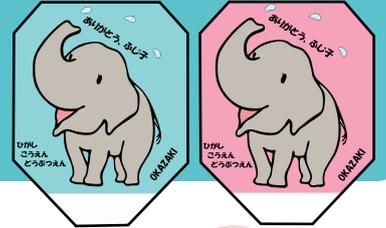


「ありがとう」





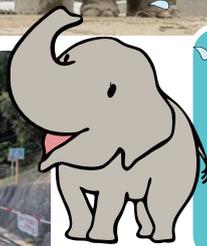
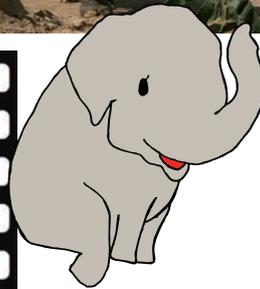
当日の来場者には、オリジナルの記念うちわの配布をしました。
準備していたうちわは、アツという間に無くなり、急遽増刷するほどでした。
今でも「うちわをおうちに飾ってます！」なんて声をちらほら耳にします。



東公園動物園公式
YouTube



ふじ子の思い出ムービーは
ここで見れますよ！



猛暑にもかかわらず、当日は約3000人のかたが来場され、思い思いの時間を過ごされました。皆さんから、ふじ子との思い出話を聞かせていただき、私たちの知らない表情を見せるふじ子を知ることができました。

ふじ子との思い出は、SNSにもたくさんのメッセージをいただきました。
以下のインスタグラムの投稿からご覧ください。



7/30の投稿



8/4の投稿

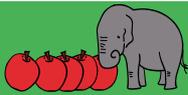
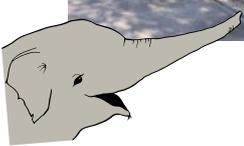


8/31の投稿



9/13の投稿

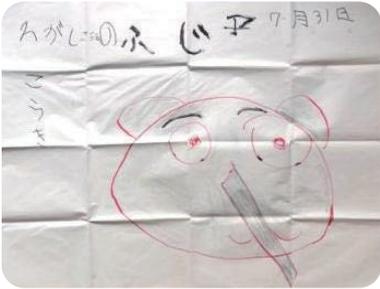
ふじ子デー





いただいたお写真、お手紙、絵や折り紙など

ふじ子が亡くなってから、献花台には1か月に1万8千人以上のかたが弔問に訪れてくださり、数えきれないほどのお花や果物、想いのこもった手紙や絵などで埋め尽くされていきました。献花台が毎日華やかに飾られていたのは、皆さんがふじ子を思う気持ちそのものでした。



献花台にいただいたもの
お花：2,185件
お供えもの：2,186件
お手紙：307通
メッセージノート：12冊分
絵・折り紙など：多数

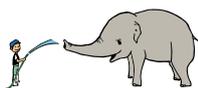


ふじ子さん、またね。ありがとう。



2025年7月30日14時20分、起立不能による循環不全によってふじ子は亡くなりました。享年57歳でした。8月1日から献花台を設け、8月31日に「ありがとう ふじ子デー」を開催したこの1か月間は、ふじ子がいかに多くのかたから愛されていたのかを改めて感じる毎日でした。私たちが知っていたふじ子は飼育員として見ていたほんの一面にしかすぎず、「東公園動物園のアイドルふじ子」は皆さんひとりひとりとの間にかげがえのない思い出があり、これからも皆さんの心の中で生きていくことを実感しました。

しかし今は、みんなが大好きだった「東公園のふじ子」はもういません。「東公園に行けば会えるのが当たり前だったふじ子」はもういません。でも、きっとふじ子は皆さんのことを、東公園動物園のことを見守ってくれています。ふじ子さん、私たちはこれから、あなたがここで暮らしたこと、あなたとの思い出が風化してしまわないように、その大切な思い出をかたちとして残し、記憶を繋いでいこうと思います。まだまださみしさは消えないけれど、お別れを言うのも辛いけれど、またね。



ふじ子、今までありがとう。たくさんの思い出をありがとう。

